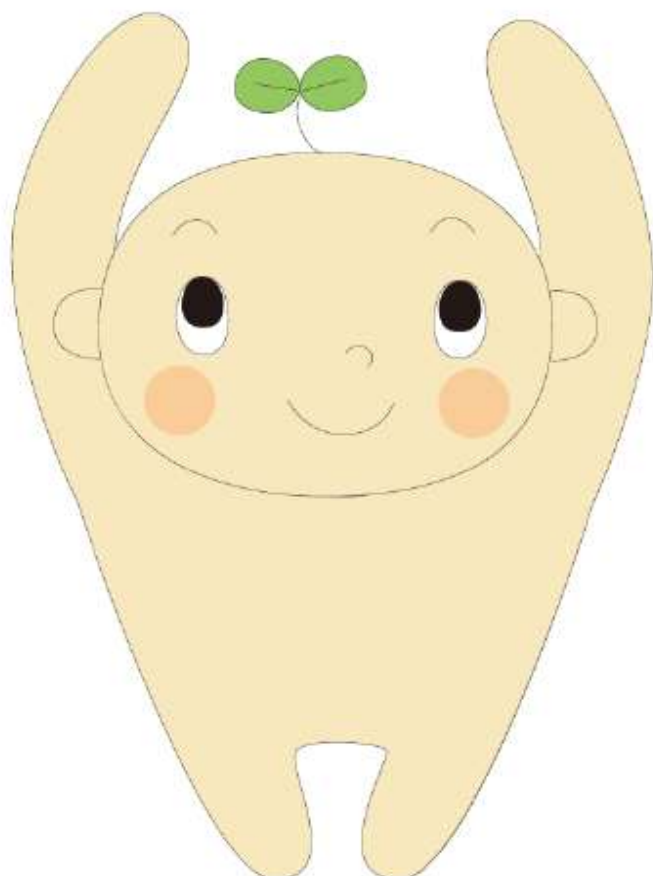


第2回 地域教育実践 南予ブロック交流集会 実施報告書



かかわりをチカラに つながりをカタチに



と き；平成 30 年 1 月 20 日(土)
と ころ；愛媛県歴史文化博物館

編集協力・イラスト：岩岡ゆかり

第2回地域教育実践南予ブロック交流集会要項

1 期 日 平成30年1月20日(土)

2 場 所 愛媛県歴史文化博物館

3 主 催 地域教育実践交流集会実行委員会
(文部科学省「学びによる地域活性化プログラム普及・啓発事業」)

4 後 援 愛媛県・愛媛県教育委員会・「えひめ教育の日」推進会議

5 趣 旨 子どもの育成にかかわっている地域活動者および活動グループが、地域の教育力を高めるため手弁当で集まり、相互の情報交換を行います。互いの実践を本音で語り合っ
て、元気を分かち合い、新たな展望や相互交流を育んでいきます。「かかわりをチカラに、つながりをカタチに」を合言葉に、毎年大洲で開催する交流集会へのステップとして、今年度も、南予地区でブロック交流集会を開催し、新たな実践者の交流を図ります。

地域教育実践の輪をさらに広げ、実践者同士の交流を深めます！



6 日 程

総合司会 … 上田 和子

時 間	内 容	場 所
12:00	受付開始	ホール入口
12:30	オープニングイベント 【豊浦の“神楽獅子”】(宇和島市)	多目的ホール
13:00	開会式あいさつ … 地域教実践交流集会実行委員長 若松 進一 趣旨説明 … ブロック集会実行副委員長 中尾 茂樹	多目的ホール
13:15	分散会 第1分散会 第2分散会 第3分散会 第4分散会	多目的ホール 第3研修室 第1ミーティングルーム 第2ミーティングルーム
15:00	移動・休憩	
15:15	全体会 インタビューダイアログ「地域づくりへの思いを語る」 語り部 … 現・元地域おこし協力隊の3名の皆さん 聞き手 … 浅野 長武	多目的ホール
16:30	閉会式あいさつ … ブロック集会実行委員長 小池 源規	多目的ホール
16:35	解 散	
17:30	交流会(自由参加)	十 石

参加者

- 参加総数 … 91名
- 参加内訳 … 一般参加者48名、報告者11名
オープニングイベント参加者16名
役員8名、実行委員8名



オープニングイベント 12:30~12:50

団体名 | 豊浦自治会・神楽獅子保存会（愛媛県無形文化財）

今から約200年位前のことです。ほとんど平地のない貧しい海岸の村には、古木がうっそうと繁り、猪が群れをなして暴れ回っていました。来る年も来る年も農作物が荒らされる上に飢餓が続き、病気が広がって、村人たちの心まで荒れ果てていたということです。天明2年から4年にかけて大洪水や虫害が続き、田畑が荒れ果てて作物が稔らず、人々は働く意欲を失って、藩から貸し下げられた口入米で命をつないでいました。

この時の五人頭、覚十郎（後に小頭）は、世直しを叫んで立ち上がり、朝早くから家々を回って人々を励まし、荒れ地を耕して農業に励むようにすすめ、その世話をしました。村の男たちは、山の神々に祈りを捧げ、新しい田畑を作るための開墾に立ち上がったのです。初めは取り合わなかった村人たちも、命をかけた覚十郎の働きに一人二人と立ち上がり、ついに村を挙げての自然との闘いが始まりました。

数年の後、貧しかった村は、豊かな明るい村に生まれ変わりました。そして、不幸を払いのけて豊かな世直しをした証として、浦名の変更を藩に願い出していたところ、寛政13年（1801年）5月5日、「弓立浦」を「豊浦」と改名するよう、藩から申し渡されました。その際、天下泰平安穏、五穀豊穰、万人無病の願いを込めて獅子舞を踊ったと言い伝えられています。また、覚十郎の死後8年、先の代官である伴淳右衛門は、覚十郎を義農と称えて自ら墓石を作り、子の八左工門をつかわし、円の塔に立てて光明寺に米一俵を祠堂、その供養をさせました。

神楽獅子には、自然と闘いながら力を合わせて豊かな村づくりに立ち上がった、豊浦地区の祖先の人々の祈りと願いが込められています。



開 会 式

13:00~13:10

司 会 者；上田 和子
会場責任者；酒井 史朗

- 1 開会あいさつ 地域教育実践交流集会実行委員長 若松 進一
- 2 趣 旨 説 明 南予ブロック交流集会副実行委員長 中尾 茂樹
- 3 事 務 連 絡



分 散 会

13:15~15:00

分散会	実 践 報 告 団 体	(報 告 者)	会 場
1	高光校区児童愛護会連合会	(門多 義人)	多目的ホール
	環境NPOサンラブ	(入江 英昭)	
2	福浦小学校区自主防災グループ	(菅原 りえ) (松田 恵子)	第3研修室
	喜久屋プロジェクト	(浅野 洋海)	
3	野村レクリエーション協会	(岡田 逸)	第1 ミーティングルーム
	愛南町水産課	(浦崎慎太郎)	
4	E. C. オーシャンズ	(岩田 政次)	第2 ミーティングルーム
	野村地域塾	(宇都宮慶久)	

第1分散会（多目的ホール）

司会者；清家 卓
会場責任者；山田 千尋

高光校区児童愛護会連合会

高光校区児童愛護会連合会の活動

高光校区児童愛護会連合会は、愛媛県下に愛護班が産声を上げた昭和36年7月に発足した。10の単位愛護班の連合体で、単位愛護班では運営できない大きな事業を協働で実施している。現会員(家庭数)は43で、高光小学校での加入率は98%に達する。

春季は、市ソフト・ミニバス大会に向けて子どもたちを指導して、スポーツ少年団に代わる機能を果たしている。また、夏休みには「ふれあいキャンプ」、秋季には秋祭り、冬季にはもちつき大会等、年間を通じて子どもたちの健全育成に寄与している。

NPO法人環境NPOサン・ラブ

NPO法人環境NPOサン・ラブの活動

平成元年、内子町六日市自治会のアンケートの中で「町内の下水やゴミ収集時の道路が臭い」の意見が一番多かった。そこで、この問題から取り組むことにした。

平成15年より、内子町では、生ゴミを資源ゴミとし、生ゴミの堆肥化を実施、そのゴミステーションに「えひめA1-1」を散布、堆肥の促進剤、消臭剤として利用。また、小・中学校への出前講座を開き、手作り廃油石けん、「えひめA1-2」の培養、自然エネルギー(水力発電、太陽光発電、風力発電等)の学習を各学校で行う。

平成19年は「エコロジータウンうちこ」の活動の中に「バイオマスタウンうちこ」が加えられた。廃食油からBDF(バイオディーゼル燃料)を精製し、行政、老健施設に配布し、ディーゼル車、給油ボイラー等に利用している。また、家庭から提供される廃油を加工して廃油石けんを作り、各家庭に配布する活動もしている。

高光校区児童愛護会連合会

【質疑応答】

Q 毎回、同じ人ばかりの活動にならないか？

A 毎年、役員メンバーは替わっている。地区ごとに役員を選出して、中心となって活動してもらっている。一年間の負担は大きいかもしれないが、みんな順番で協力してやるのが当たり前だと思っている人がほとんどだと思う。

Q 子どもや小学生以外の参加はないのか？

A スポーツの指導者等で参加してもらっている人が数名いる。

Q 自分の子どもも愛護班にお世話になっている。子どもは地域の宝。しかし、小学生、中学生の数が0人となり、自分が住んでいる地区はさみしくなり、地域に元気がなくなったと感じている。高光地区の現状はどうか？

A 高光地区も人数減少があり、ミニバスやソフトも人数ぎりぎりの状態。来年度は現状維持ができるが、再来年度は続けられなくなるものも出てくると思う。今後の課題である。

Q 高齢者訪問を詳しく教えてほしい。

A 学校が終わってからの放課後子ども教室で笹かざりのかざりやカレンダーを作っている。笹は、地区の愛護班役員がとってくる。それにみんなでかざりつけをして、各高齢者宅に配っている。

Q 事業収入605,000円の内訳を教えてほしい。

A ① 秋祭りのご祝儀・・・10の自治体からいただいている。

② 夏祭りの出店等の収入等

Q 高光地区にスポーツ少年団はないのか？

A スポーツ少年団はないが、公民館チームとして宇和島市の大会に参加している。期間限定の練習にはなるが、保護者の協力で、何とか維持できている。

Q 愛護班の若いメンバーから新しい企画が出ることはあるのか？

A 伝統的なものをやることで手一杯で、新しいことはできていない。

【感想】

愛護班の力があって、地域が活性化される。公民館活動等と協力しながら、地道な活動をしておられることに感動した。スポーツ少年団がなくても、子どもたちとともにスポーツを楽しみ、喜びを分かち合うことができる、素晴らしい取組をされていた。

NPO法人環境NPOサン・ラブ

【質疑応答】

Q NPO法人の人数を教えてほしい。

A 行政委託で、2名の職員がいる。

Q 運営資金はどうなっているのか？

A 会員制で、100名の会員から年間4,000円の会費を集めているので400,000円ある。それと、行政の委託事業で残留農薬を調査する委託金をもらっている。また、「えひめAI」等の売り上げ、バイオマス燃料等の売り上げもある。

Q 以前、EM菌を作って使っていたが、「えひめAI」の方が効果があると感じている。何が違うのか？

A 「えひめAI」は砂糖を使って作る。乳酸菌や納豆菌の力を活用している。そのもの自体のおいしさはあるが、汚水等かけると反応しておいしくなくなる。

【感想】

息の長い取組、行政を巻き込んでの取組が素晴らしいと思う。環境保全のために、また子どもたちの未来のためにも、このような団体があるのは頼もしい。



第2分散会（第3研修室）

司会者；加洲 景
会場責任者；中本 克也

自主防災活動を続ける主婦二人組

自主防災活動を続ける主婦2人組の活動

平成27年に愛南町教育委員会が企画した「保護者を東北の被災地に～東日本大震災復興支援事業～現地研修並びに東北を元気にする夏井いつき防災句会ライブの実践」に私たち二人は参加した。仙台市近郊・閑上中学校遺族会会長の丹野さんからお話を聞き、心が震えた私たちは、福浦地区（愛南町立御荘中学校区）に帰って、私たちでもできることを少しずつ実践していこうと決めた。

細かく分かれた全ての地区へ入り込み自主防災訓練を重ねてきた。敬老会で報告したり、自主的な避難訓練をしたり、防災学習会も定期的に行ったりしている。会を重ねるうちに、参加者の意識が変わってきていることが分かる。地域が一体となっていく喜びを感じているし、やればできるんだという自信にもつながっている。私たちの命は私たちで守る……。少しずつ、でも確実に地域の方々の意識が高まっていくことが本当にうれしい。

喜久家（Kikuya）

喜久家（Kikuya）の活動

四国最西端の小さな小さな郷の物語。人口45人の伊方町平儀。「喜久家」は、そこにある古民家。先祖が積み上げた碧石や石灰岩の石垣が、郷や段々畑を支えている。冬、山々が黄金色に色づき始める。伊予柑・サンフルーツ・清見・デコポン…実りの季節だ。人々は、気さくで、ねばり強い。過疎化・高齢化の壁が立ちふさがるが、決してあきらめない。「変えてはいけないものがある！変えなければいけないものがある！」

2007年2月、国内外から若者ボランティアを受け入れ、一緒に郷づくりを始めて10年。世界22か国もの若者たちとの協働。農作業、耕作放棄地の再生、地域行事への参加、クリーン運動、異文化交流、学校訪問、農業体験受け入れ、ひきこもり青少年の自立支援…。これまでに訪れた外国の若者110人、日本の若者97人、日帰り者約360人（のべ人数）。時には道ばたで、時には農作業をしながら、時には酒を酌み交わしながら、互いに自分を語り、夢を語る。自信がわきおこり、誇りが感じられる。

カラフルでヘルシーな明るい農村をめざす。

【質疑応答】

自主防災活動を続ける主婦2人組の活動

Q 防災倉庫にかぎをかけないということだが、防犯上の声は出なかったか。

A 福浦には、備蓄品をもっていってしまうような人はいない。信頼関係で成り立っている。

Q 防災倉庫が荒らされるのではないかと心配してしまう。ダイヤル式のかぎをかける方法もあると思うが。

A 倉庫は地元の人しか知らない道の山の中にある。いろいろな心配よりも実際の場面ですぐに分け合えることが大切だと思う。地元の人も結構気にかけており、最悪盗まれたとしても買い足せばいいというスタンスでいる。

喜久家 (Kikuya) の活動

Q 喜久家プロジェクトの運営費はどうしているのか。

A 運営費はない。補助金もない。みんな無償で参加してくる。衣食住に必要なお金は、地元の人が出し合って活動している。

Q 浅野先生には、ワークキャンプでお世話になった。様々な国の若者が集い、交流が進んでいるが、始めの頃には課題もあったのではないか。

Q 地域の人とのトラブルもあった。自分は、パソコンで情報を発信しているだけで、実際に大変なのは代表の弟だと思うが、大変さ、問題点を差し引いても成果の方が大きい。

【意見】

◇ 自分は安全部会に所属していて、450人の子どもたちと体育館で防災訓練を行った。実際に活動してみることが大切だと感じる。喜久家プロジェクトの活動に興味がある。自分自身、保育士として英語を使った保育活動を推進している。グローバル化が進む 昨今、喜久家プロジェクトの活動も参考にしながら、国際交流に目を向けていきたい。

◇ 命を守るための防災にかける二人の思いが伝わってきた。行動力が素晴らしい。自分もできることから進めていきたい。お年寄りを巻き込みながら、みんなとつながっていくところが参考になった。



第3分散会

司会者；中川 博之
会場責任者；宇都宮 晋

(第1ミーティングルーム)

野村町レクリエーション協会

みんな“家族”だ！

野村町レクリエーション協会は、児童・生徒の夏季休業中に、西予市野村町惣川地区・大野ヶ原地区において6泊7日間の野外体験活動「アドベンチャースクール」を実施しており、今年で30回目を迎える。対象は、小学3年生～中学3年生としており、今年度は県内外から35名の参加があった。「仲間への思いやりを大切に」「絶対に死んではならない」等の4つの心得を胸に、源流探検、羅漢穴探検等の西予の自然を生かした様々なプログラムに挑戦することで、子供たちは、自主性や協調性、社会性を身に付けていく。また、水や火や物を大切にすることや家族や周囲の方々に感謝する気持ちを育むこともできる。これまで関わってきた方々全員が私たちスタッフにとっては「家族」であり、今後も家族を増やし、未来を担う子供たちの健全育成のためにこの事業を継続していきたい。

愛南町水産課

「宇宙とつながる養殖漁業」～餌やりはスマホで～

愛南町は養殖漁業が盛んな地域である。しかし、漁師の高齢化等、様々な課題も抱えている。そのため、町をあげて、養殖魚の販売、人材育成、新養殖魚種の開発、水産業ICT普及事業等に力を入れている。中でも、魚類養殖の革新は愛媛大学、人材育成については南宇和高校と連携して進めている。

このほど、宇宙の衛星を使い養殖いけすの様子を見ながら餌やりができる技術を開発した。世界中どこに居ても、スマホを使い水中カメラの映像を確認し、魚の餌の食い方を見て調節しながら餌やりができるものである。今後も、水域情報可視化システムや魚健康カルテシステムなどの開発等の水産業改革を通して、これからの地域おこし（産業）の在り方を提案していきたい。

【質疑応答】

野村町レクリエーション協会

- Q 30年間このアドベンチャースクールを続けていくには、大変な苦勞を乗り越えられていると思うが、スタッフはどんな思いをもって取り組まれているのか知りたい。
- A 最近のスタッフは、市役所関係の方が中心である。4月の総会で、行事の実施を確認し、スタッフを集める。協会員を始め、地域の方々の協力がないとできない行事である。スタッフにとっても大変負担は大きいですが、自然を愛し、地域を愛する子どもを育てたいという気持ちで協力していただいている。終わった後の反省会（打ち上げ）も楽しみである。
- Q 6泊7日の日程は、なかなかハードであるが、その間の健康管理で気を付けていることはどのようなことか。

A 夏の野外での活動なので、水分補給には特に留意している。水筒を満タンにして出発したり、車に水を積んで同行したりしている。トイレが問題であるが、調子が悪くならないうちに行かせるよう、常に声掛けしている。

Q 参加者は地元の子が多いのか。そして、参加した子どものその後について教えてほしい。

A 小学生の時に参加した子どもが、大学生や成人してスタッフとして参加してくれることがある。また、成人して家庭を持った時、自分の子どもを参加させることもある。最近の傾向として、野村町以外の参加者が多い。今年度は、町内3名、町外27名、県外5名であった。習い事等で、1週間参加することができにくいようである。

Q 天候不良で野外での活動ができないときは、どう対処するのか。

A 元少年自然の家や大野ヶ原小学校の施設を利用して、屋内でできる活動を行う。それらの施設については、事前に使用許可を得るようにしている。

愛南町水産課

Q 愛南町産の魚は主に東京でしか販売されていないと聞いている。アマゴの燻製を食べたいのだが、どうやったら手に入るのか。

A 愛南町内の飲食店で食べることができる。その他の方法については相談に乗る。

Q 八幡浜市の養殖業者はなかなか厳しい状況にあると聞いている。機械を利用して効率よくえさをやり、無駄を省くのはよいことだと思うが、設置している業者と設置していない業者とは、どのくらい収支面で差が出るのか。

A 愛南町の養殖業者は経営面で比較的安定していると思う。現在は機械の設置を初めて2年目なので、はっきりとしたことは言えない。予算は一機約40万円であり、想像されるより安価だと考える。対応年数についても試験段階であり、リースその他の方法も検討している。民間業者が製作しているため、愛南町以外も視野に入れて普及させていきたい。大切なことは、その地域に応じた種を養殖することだと考える。鯛を例にとると、水温等の条件を考えると愛南の方が養殖しやすい。

全体

Q 報告の中にもあったが、事業のマンネリ化、後継者育成が課題に挙げられている。これらについての意見はないか。

A 附属小学校で5泊6日の宿泊研修を行った。その時は、何もしない日を設定した。そうすると、子供たちは自分たちでその後の活動に必要な打ち合わせや準備を積極的に進めた。毎日活動を入れなくてもよいと思う。宿泊研修をするのであれば、3日以上の方が良いと思う。4日目くらいから子供たちはがらっと変わるからである。また、排便が恥ずかしくなくできるようになるのもそのころからで、朝の時間をゆっくりとるなどの配慮もしたい。活動内容は、初日は「食べる」、2日目は「登る」、3日目は「何もしない」、4日目は「最後のイベントとまとめ」というように、2泊3日の日程を、じっくり行うのは、自主性を育て体調管理の面でもよいと思う。

A 活動を継続させるのは大変である。城川町で奥伊予太鼓を始めて30周年を迎え、12月に記念行事を行った。その間、人数が少なくなった時期もあったが、魚成保育所や魚成小学校で太鼓クラブを作ってもらうことで、太鼓と触れ合う機会ができ、興味をもつ子供が増えた。南宇和高校のサッカー一部が小学校からの選手育成を大切にして全国優勝を成し遂げたように、将来地域を支える子供たちの心をつかむことが、奥伊予太鼓を存続させるポイントだと考える。また、他団体との交流をすることで視野が広がる。指導を仰いだ長野県の御諏訪太鼓とは今でも交流が続いている。「継続は力なり」を念頭に今後も頑張りたい。

【最後に】

どの発表も素晴らしかった。今後も、このつながりを大切にし、お互いの良さを取り入れ、実践につなげてほしい。



第4分散会

(第2ミーティングルーム)

司会者；河野 文俊
会場責任者；澁武 美貴

野村地域自治振興協議会

野村地域塾事業

野村城川地域唯一の高等学校である野村高校は地域内からの入学者が年々減少し、生徒確保が課題となっている。

野村地域自治振興協議会（以下のむら自治振）では、野村高校の特色や強みを生かしながら、現在抱えている課題を解決することこそが地域課題の解決につながると考え、西予市地域づくり交付金（手上げ型交付金）を活用して、平成28年12月に野村地域塾を立ち上げた。

自主学習支援と地域学の推進の2つを活動の柱とし、学力の伸長を図るとともに、郷土愛を育み、地域を愛し地域の課題を解決する人を育てることを目的として活動をしている。

現在は、学習支援は個別指導を中心に行い、地域学は高校生から大人も一緒に学ぶ講座に対象を広げて実施している。世代を超えた話合いができたり、大人の学びがまた新たな地域資料の発掘につながったりするなどの成果が上がっている。学校との連携が課題である。



<宇都宮 慶久 氏>

のむら自治振の周辺団体として、のむらチャレンジ隊（公民館事業）、N-ジオチャレ（放課後子ども教室）などがある。また、ジオパークのガイド養成、空き家を利用したゲストハウスの整備など様々な事業にも取り組んでいる。

【質疑応答】

Q 活動を整理しないと飽和状態なのではないか。

A のむら自治振の活動は12～3人でやっている。活動開始から3年やりたいことをやってきたが、メンバーは家のことをなげうってやっている状況である。そろそろ活動を絞り、組織の見直しをしないと続かないと考えている。

Q 始まった頃の学校の反応は。

A 校長先生主導で「ぜひ、やってほしい」という感じだった。校長先生が退職すると学校はさっと引いて行った。私たちは子どもたちに地域のよさを伝えて地域愛を育みたかったのがあって、学習指導がしたかったわけではない。学習指導と地域学の2本をからめて行うことで地域愛が育めると考えていた。

【意見交換】

- 地元の大人が生きがいをもって、健康的で明るく生活をしていたら、子どもたちはそれを見て判断し、ここに住みたいと思うのではないか。
- すごく質の高い活動である。この塾の卒業生の進学率が上がるという結果が出れば、人が集まるようになる。地域学を続けて、自分の地域を自分の言葉で伝えられる人を育成してほしい。
- 高知県馬路村で高知医大の学生を夏休みに呼び、中学生を対象とした集中講座を実施した、一時中断していた地域の運動会を公募で参加者を募って復活させ、地域の交流人口が増えたという事例がある。自分たちにできることを精査して、焦点を絞って、地道に続けることで効果が出る。

E. C. オーシャンズ (Earth Clean Oceans)

海のプラスチックごみ問題 秘境の浜辺の漂着ゴミ拾い

かわうそ復活プロジェクトに10年以上関わる中で、海岸清掃などに取り組んできた。2016年3月に歩いて行けない場所に大量のゴミが漂着しているのを発見して衝撃を受け、漂着ゴミを拾う活動を始めた。

宇和海側では魚の養殖筏に使用されるフロート、瀬戸内海側では牡蠣の養殖に使用される養殖パイプが多く、海外からの漂着ゴミは少ない。生物保全のために始めた活動ではあるが、これは環境保全の問題であり、人間の問題であると気付かされた。

捨てられたプラスチックゴミが波や太陽光の力で砕けて微細化するとマイクロプラスチックとなり、拾うことができなくなってしまうため、大きいうちに拾うことが重要である。



<岩田氏と協力者の西村氏>

ゴミを拾うためには、ごみを受け入れてもらうところがないと処理ができないため、活動ができない。市町によっては受け入れを拒否される場合もあり、活動を継続させるためには、高性能の焼却炉を有する市町の協力を得ることが必要である。

現在、松山ユネスコ協会の西村さんの協力のもと、漂着ゴミとして拾った養殖パイプを活用してアート作品を作るプログラムを考えている。楽しく活動することが郷土愛を深め、自然に優しい人づくりにつながると考えている。興味のある人はぜひ協力してほしい。



<養殖パイプで作った作品>

【質疑応答】

Q カワウソの現状は？

A カワウソ復活プロジェクトはカワウソを追いかけているのではなく、カワウソがいたころの環境を復活させることを目的に活動している。

Q 活動を始めたきっかけは？

A 大洲市新谷で、冬歩いていると、親イシガメと2匹の子ガメが足元に歩いてきた。「何とかしてくれや」と言われている気がしたので、周囲を見ると河川工事が行われていた。河川の下流からは工事が進み、上流からは家庭排水が流れ込み逃げ出してきたと気付いた。何とかしてやらなくてはと思い、その亀を助けたことがきっかけである。次の世代に命を繋ぐという活動をそれぞれの立場でやっていくことが大切だと考えている。

【最後に】

地域の危機感からスタートし、何とかしたいと懸命に活動されている取組を発表していただいた。大人がそういった気持ちで活動を続けている姿を見て、後に続く子供たちが育つのではないかと考える。自分たちにできることを、精査して続けることが大切である。

閉 会 式

16:30~16:35

司 会 者；上田 和子
会場責任者；酒井 史朗

- 1 閉会あいさつ 地域教育実践南予ブロック交流集会実行委員長 小池 源規
- 2 事務連絡

交 流 会

17:30~20:00



実行委員会名簿

【地域教育実践交流集会実行委員長】若松 進一 【名誉顧問】讃岐 幸治
【南予ブロック集会実行委員長】小池 源規 【 // 副実行委員長】中尾 茂樹
【実行委員】浅野 長武・上田 和子・國分 美由紀・酒井 史朗・武岡 伸司



第2回地域教育実践南予ブロック交流集会 アンケート

実行委員の皆様、大変お世話になりました。今回の交流集会でお気付きの点がありましたら、遠慮なく記入してください。

1 分散会について

- 昨年の3本から2本にして、1つ1つについて話し合う時間は伸びたが、まだまだ時間が足りないように感じた。自己紹介を短くするように意識したことは良かった。
- 今年度もパソコンを持ってきていない発表者がいて、同じ分散会の発表者に借りた。発表者への事前連絡を徹底しなくてはならないと思う。
- 発表者の二人とも20分は超えていたと思う。ある程度、時間を守っていただくことも大切な気がする。
- 受付作業を簡略化するために、名札に分科会を明記しておくか、名簿を冊子に添付しておくかする。(伝え忘れて行先が分からない方がいた)
- 会場責任者・司会者には早めに冊子・タイムスケジュール・進行表を渡して、事前に会の運営を理解していただくとよい。
- 今年は、どの部会も大変良かった(発表が)と聞いている。私の見た二つの部会は、ばっちりだった。研究協議も、間が空くこともなく活発に進んでいたと聞いている。私の見た二つの部会もばっちりだった。

2 インタビューダイアログについて

- 浅野先生のファシリテーターがおだやかにかみしめる感じの語り、皆さんにじんわりと考えさせる雰囲気だととてもいい。
- 人選が毎年素晴らしい。
- 壇上の方々の考え方や熱い思いが伝わってきました。会場の方からの質問や意見がどんどん出るとよかった。
- 地域で活躍されている地域おこし協力隊のお話は、前向きで活動的で魅力的なものだった。
- 3人の方々が、それぞれの持ち味を生かして、視点や立ち位置を考えながら話して下さったのがよかった。もちろんそれを引き出す浅野先生もグッド!
- 事前打ち合わせがしっかりできたのがその要因です、と森さんは言っていた。

3 交流会について

- やはり、これがメインだと思う。
- 中尾先生の趣向を凝らしたプログラムが毎回楽しみ。予算から商品代が出ればよい。
- 中尾先生に盛り上げていただいて、より楽しい会になった。感謝しているが、お一人での

準備は大変だったのではないか。

- 交流会は、親交を深めたり、情報交換をしたりする貴重な場となっている。
- マイクの音量がさらに必要、ということが判明した。それから笛もいる。来年は今回できなかった「作文コンテスト」を行います！

4 その他（オープニングイベント、役員打合せ、当日資料、準備等）

- 会場責任者・ファシリテーターにも、可能であれば当日までに運営資料（会の流し方、当日の動きの分かるもの）を渡した方がよい。また、役員の集合時間をもう少し早めて、準備・打合せを終えて、開会行事に参加できるようにしたい。
- 会場責任者が記録と写真を担当していたが、電気、プロジェクタ、パソコンの切り替えなどもあり、写真を撮り忘れるところだった。報告書に必要なので、写真記録係を作ってはどうかと思った。
- 実践交流会のように参加分科会の決定が当日くじ引きではないので、当日資料に参加者名簿（分科会別）があれば良い。迷子も減ると思う。
- 発表者以外の参加者にも、自分たちの団体のイベントのチラシなどを持ってきてもらって、自由にとってもらうか、コーナーを設置してはどうか。
- オープニングイベントに発表者、会場責任者、ファシリテーターが参加しにくいので、お客さんが少なく申し訳なく思う。分科会と全体会の間に行くなど、人が集まりやすいときに行い、あまり見ることのできない地域の芸能をみんなで堪能したい。
- お金の行方（参加費はどこへ？）は明確にしておくべきだと思う。
- 実行委員会の皆様お疲れ様でした。
- 発表者、司会者、会場責任者の打合せを早めに行い、オープニングイベントを見たらよいと思う。（今回は観客が少なかった）
- 受付は実行委員の会計係と実行委員以外でお願いした方で行った方がよい。（実行委員は他の役割が多く、忙しい）
- 実行委員を増やすか、会の運営委員をつくって、当日の対応に余裕をもたせたらよい。
- 報告者、語り部の方には早めに来ていただいて、受付前に打合せを済ませて、オープニングイベントにも参加してもらおう。（見たかったといわれる報告者・語り部がおられた）
- 写真は他に役割（記録・講師対応・あいさつ）のある実行委員がすると対応できない場合があるので、フリーの有志（実行委員に近い人）にお願いしてはどうか。
- せっかくのオープニングアトラクションに、全ての参加者が一堂に会せるよう、弁当代（パンと飲み物でも）を用意して役員打合せを12時までに終わらせるか、会の開始時間そのものを遅らせてゆとりを持たせるか、どちらかの対応がいるのでは！？
- 開かれた教育課程・・・ということで、多くの教頭先生に参加いただき、CS等具体的実践例を挙げてもらったらどうか。
- 名札をなしにすると、受付がかなりスムーズになるかもしれない。